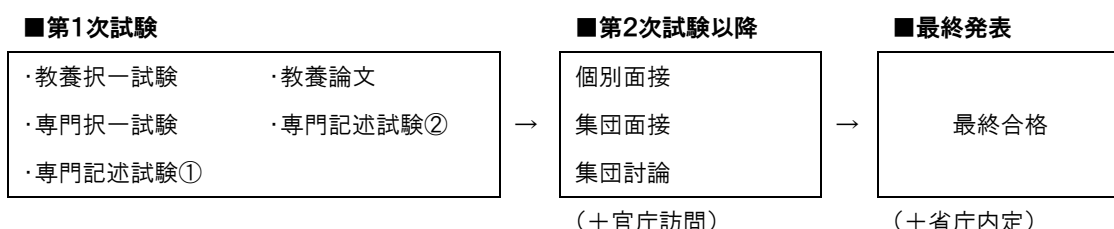


▶公務員試験対策・学習方針

理系 **技術職** 公務員 オリエンテーション

理系公務員試験についての効率的な受験戦略や得点力強化の学習法を **TAC** がお伝えします！

1. 公務員試験の概要と、「理系(技術職)公務員」



* ()内は国家公務員一般職(以下、国家一般職)および国家総合職(以下、国家総合職)で採用されるための重要事項です。

●教養択一試験

数的処理の比率は、教養択一試験の1/3程度。資料解釈は国家一般職、労働基準監督官 B、食品衛生監視員
ほか「国家公務員」と東京都、特別区で出題数が多く、他の自治体では出題数が低い。

- 1) 人文科学、社会科学は試験種により問題数が異なるが、(i)併願対策のため、(ii)他の受験生、特に独学者と差をつけるため、しっかりと学習し、得点力をつけることが大切。
- 2) 自然科学は「数学・物理・化学・生物・地学」の5分野からなるが、本試験で5分野から出題されることは少ない・また、自然科学の問題数自体も少ないので、時間効率を考えるなら、講義を受ける前に、まず問題を解いてみる。なお、数学はほぼⅠA、ⅡB範囲。

●専門試験(択一、記述)

- 3) 一般に「専門記述試験」と呼ばれるものは2種類あり、内容は異なる。

専門記述試験①(国家一般職)	内容は教養論文にとっても近い。専門分野の感覚を用いて、テーマに対し文章で答える
専門記述試験② (東京都、大阪府など)	マークシートは使わない。問題を「書いて」解答。計算問題では、計算過程を必ず示す。大学入試の2次試験に近いイメージ。

4)一部の試験を除き、専門試験は『択一』がほとんどです。

(試験形式は変更となる場合があります。人事院や自治体 HP でご確認ください。)

試験種	専門試験の出題形式
国家総合職 労働基準監督官 B	専門択一＋専門記述②
食品衛生監視員／東京都 I 類 A・B(一般方式) 特別区 I 類／大阪市など	専門記述②
国家一般職	専門択一＋専門記述①
横浜市	「情報」区分は専門記述② その他区分は専門択一
国立大学法人	1 次試験では専門択一・記述とも無し (2次試験以降は、大学法人等の独自裁量)
東京都 I 類 B (土木・建築)新方式	教養択一＋専門択一(工学基礎)

〈**check!**〉東京都 I 類 B(土木・建築) 新方式試験の科目など

東京都 I 類 B(土木・建築)「新方式」試験は、専門(記述・択一)の出題がなく、

①第1次試験では教養試験とプレゼンテーションシート作成

②第2次試験ではプレゼンテーションおよび口述試験(＝面接)

③第3次試験ではフィールドワークおよびワークショップ、口述試験(＝面接)

となります。また、教養試験では「工学基礎」という名称科目の出題があります。

※「工学基礎」は「工学の基礎(工学に関する基礎知識)」とは異なることに注意！

5)工学の基礎

出題される区分はおおむね、(i)土木、(ii)建築、(iii)電気・情報系、(iv)機械、(v)化学。

造園や衛生、農業、林業、水産などでは出題なし。また、(v)化学区分における「工学の基礎」の出題は、他の区分よりも少ない場合が多い(国家総合職および労働基準監督官 B を除く)。

内容は高校～大学教養課程修了までの数学・物理。国家一般職では 40 問中 20 問(建築区分は 33 門柱 20 問)、化学区分では 40 問中 9～10 問。自治体ではおおむね専門択一試験出題数のおよそ 1/4 程度。また、東京都および特別区では全区分とも「工学の基礎」の出題なし。

●論文試験

6)公務員試験では、論文試験を課す試験種がほとんど。論文の対策は必須。

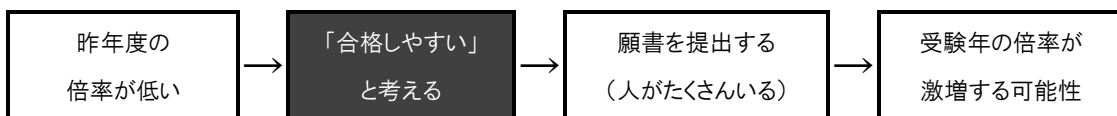
7)自治体の場合、論文のテーマは行政・事務系と同じ場合がとて多い。

8)国家一般職における「専門記述①」は極めて論文に近い。

9)技術職公務員を受験する人にとって、論文は一つの壁。講義＋練習(添削)が必須。

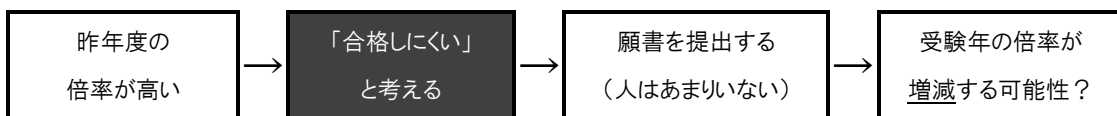
■募集人数と合格倍率, 実際の合格者数に関して

例1: 昨年度の倍率が低いケース



●同じように考えている人は、たくさんいる。倍率は「合格のしやすさ」を表す数値ではない。

例2: 昨年度の倍率が高いケース



●だからといって、「昨年度の倍率が高いと、今年度は合格しやすい」と考えるのは軽率。やはり、倍率は「合格のしやすさ」を表す数値ではない。

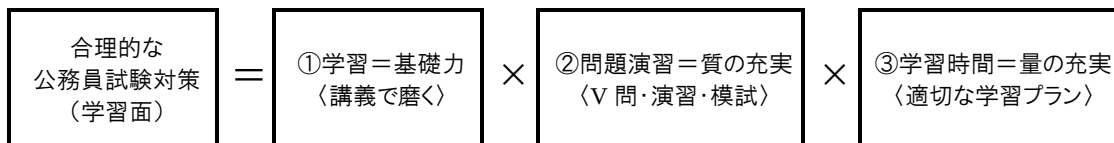
例3: 東京都 I 類 B(土木)

	募集	申込	1次試験 (受験者)	1次試験 (合格者)	2次試験 (受験者)	2次試験 (合格者)	最終試験 (受験者)	最終試験 (合格者)
H24	94	682	473	350	315	237	219	175
H25	86	643	479	315	290	227	202	173
H26	80	762	571	284	266	155	—	—
H27	90	854	632	347	315	175	—	—

	申込 →受験	1次 倍率	1次合格 →2次受験	2次 倍率	1次受験 最終合格	1次申込 最終合格
H24	69.4%	1.4	90.0%	1.3	2.7	3.9
H25	74.5%	1.5	92.1%	1.3	2.8	3.7
H26	74.9%	2.0	93.7%	1.7	3.7	4.9
H27	74.0%	1.8	90.8%	1.8	3.6	4.9

2. 学習を開始する～プランを立てる～

公務員試験の学習を始めるにあたり、まず以下を考えます。



加算でなく乗算なのがポイント。学習方法を調整することで大きな上乗せが期待できる一方、①～③のどれか 1 つでも一定量に達していなければ、合計がかなり減ってしまう。

例1) 講義はすべて受講したが、復習や問題演習はまだ行っていない(本試験近くになってから)

→②質の充実を図る。また、講義から演習までの日が開くほど、忘れる部分が多くなる。

例2) まず問題をたくさん行う。1 日あたりの時間もかなり充実させる。

→①基礎力に不安あり。また、すべての科目について問題演習をしているかも心配。

問題を解き、わからないものはピンポイントで受講する(Web フォローが便利)

例3) 1 日あたりの学習時間がとれない。

→③学習時間の不足を②問題演習で補う。演習を行うことで

- ・「講義を受けなくても問題を解ける」分野
- ・「わからない部分のみ講義を受ければレベルアップできそうな」分野
- ・「まったく初めてなので講義を受ける」分野

の区分けができ、無駄かもしれない時間を意味のある時間に変換できる。

●異なる科目を、同じ学習法で進めるのは非効率。

①教養択一(一般知能)…「どのくらいたくさん知っているか」＝「得点」＝演習量が重要

- ・本試験までに、知識量を増やし続ける。「捨て科目」にしない。
- ・講義量と復習量を連動させる。例えば、人文科学や社会科学なら…

講義	復習
1 回目	問題: 1 回目講義内容
2 回目	問題: 1 回目 + 2 回目講義内容
3 回目	問題: 1 回目 + 2 回目 + 3 回目講義内容

⋮

⋮

- ・一般知識では、「理解してから問題を解く」ことが難しい。問題を解きながら知識を増やす。講義を受講し、問題を解き、その解答解説を深く読む。
- ・「1 問にかかる時間を短くする」クセをつける。また、量をこなす。

②教養択一(一般知能)…「知識ベースと戦略ベースをどのくらい使ったか」＝講義が大切

◆数的処理

- ・重要な問題の基本解法を理解する。
- ・問題の解き方の基本を理解する。
- ・あまりにも難しい問題の学習はしない。ただし解答解説はしっかり読む。
- ・「1つの問題に時間をかける」のは週に1度。もしくは趣味で。

問題を見て、解答解説を見て、マネをして、思い出しながら解いて、日を改めて解いて、類題を解く。解法は「マネをする」ことから始めてみる。

◆文章理解

- ・文章のどこを読むかで、解答までの時間が変わる。
- ・普段から文章を読む。語彙を増やす。

③論文

- ・対策の有無で最も差がでる科目。また、理系が苦手とする科目。
- ・実際に論文を書くことで、その手間(かかる時間)と難しさがわかる。
- ・まず講義、そして書き、添削指導を受ける。
- ・添削された内容を、次の論文に活かす。

④専門科目(工学の基礎)

- ・まず問題から。できるもの(分野)とできないものを早いうちから分ける。
- ・「工学の基礎」の学習分野は、自然科学の「数学」、「物理」を含む。学習することで、互いに得点しやすくなり、 $+\alpha$ が見込める。
- ・「工学の基礎」の「数学」、および自然科学の「数学」は、数的処理の解法が有効なものもある。

⑤専門科目(専攻分野)

- ・基本は独自学習。テキストや問題集は、「より公務員試験に近いもの」+「読んでわかりやすいテキスト」。第1の目標は「大学院入試レベルの問題攻略」
- ・区分により、大学で学習していない科目もある。最新の願書(受験要項)でチェック。
大学などで学ばなかった科目が出題されるのは、どの受験生も抱える心配。学習を始めることが一番効率のよい対策。

〈**check!**〉建築区分における製図の出題について

製図の出題はきわめて少ない(国家総合職、国家一般職、ごく一部の自治体のみ)。さらに、出題時はフリーハンドがほとんど。三角スケールなどの用具は禁止であることが多い。

●教養択一試験の内訳

分野		一般知能							一般知識														出題数	解答数	
		数の処理				文章理解			人文科学						自然科学					社会科学					
		数の推理	判断推理	空間把握	資料解釈	現代文	英文	古文	世界史	日本史	地理	思想	文学・芸術	国語	数学	物理	化学	生物	地学	政治	経済	法律			社会・時事
国家一般職		5	6	2	3	6	5	-	1	1	1	1	-	-	-	1	1	1	-	1	1	1	3	40	40
労働基準監督B		5	6	2	3	6	5	-	1	1	1	1	-	-	-	1	1	1	-	-	1	1	4	40	40
地方 上級	全国型	6	5	4	1	3	5	1	2	2	2	-	-	-	1	1	2	2	1	4	3		5	50	50
	関東型	5	3	3	1	3	5	1	3	3	2	-	1	-	1	1	2	2	1	4	4		5	50	40
	中部・北陸型	5	5	4	1	3	5	1	2	3	2	-	1	-	1	1	2	2	1	3	3		4	50	50
	A日程市役所	5	7		1	3	3	1	2	2	2	0	1	-	1	1	1	2	1	1	2	2	2	40	40
	B日程市役所	4	8		1	2	4	1	2	3	2	0	0	-	1	1	1	2	1	1	2	2	2	40	40
	C日程市役所	4	8		1	3	3	1	2	2	2	0	1	-	1	1	1	2	1	1	2	2	2	40	40
	東京都I類B	27							3					-	-	8				3			3	40	44
地方上級 独自型	特別区I類①	24					-		4					8					4			4	40	44	
	横浜市②	5	3	3	1	3	5	-	3	2	2	1	1	-	1	1	2	2	1	4	4	2	5	40	40

教養試験における 各分野の問題数と その割合(%) * 科目総数÷試験種計	一般知能 23.2 問(51.4%)		一般知識 22.3 問(48.6%)			出題数 45.5 問 (100%)
	数的処理	文章理解	人文科学	自然科学※	社会科学	
	14.4 (31.6%)	8.8 (19.3%)	6.2 (13.6%)	5.7 (12.5%)	10.4 (22.9%)	

〈〈重要〉〉 ①特別区I類は、平成27年度試験より30分の性格検査を行うことが決定されました。②横浜市の教養択一は、行政・事務系の場合60問出題、60問解答ですが、技術職・資格職は40問出題、40問解答です。また、試験における出題数の配分はTAC受講生からいただいたデータを元にしたもので、実際の本試験とは異なる場合があります。

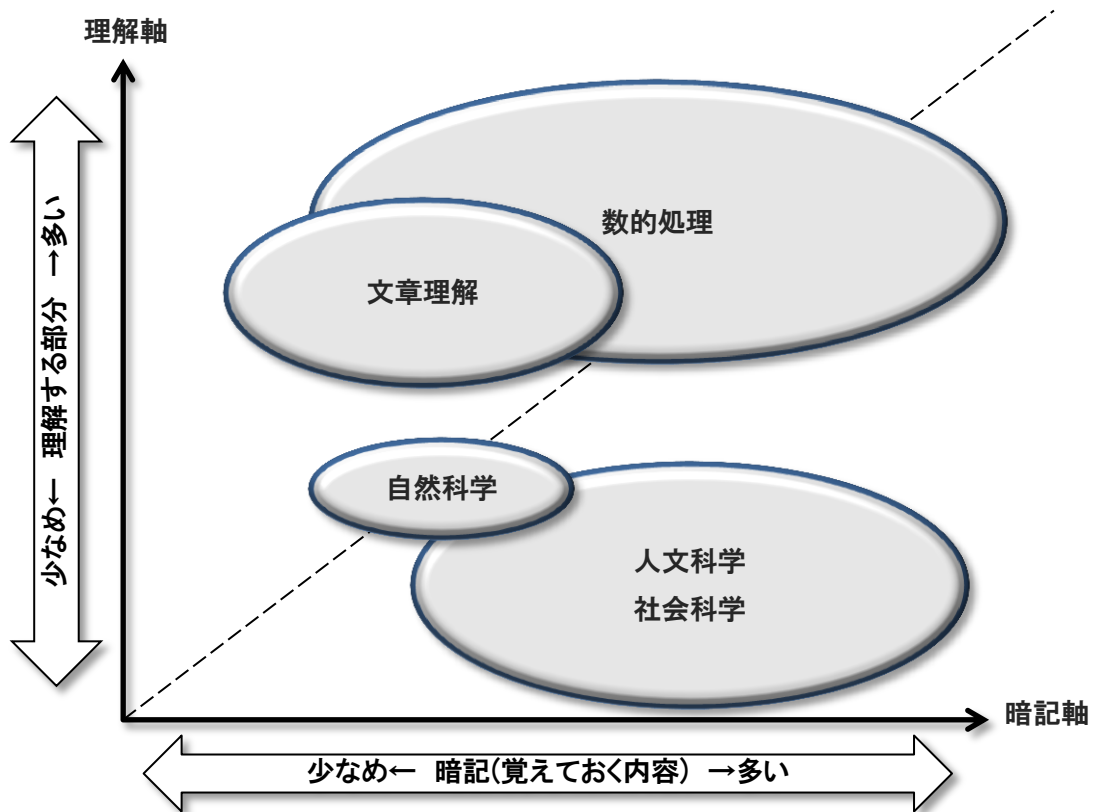
〈〈重要〉〉 特別区I類は、平成26年度試験より一般知能が24題(現行22題)、一般知識は20題中16題解答(現行30題中18題解答)となりました。これにより、以下2点がポイントとして挙げられます。①全問に占める一般知能の割合が増加。②一般知識の出題が減る。このため、より広い分野の学習が必要。

また、専門試験(択一・記述)については、大きく3つの内容に分かれます。

- ① 各区分の専門分野(大学で専攻している科目・分野)からの出題
- ② 特殊な資格試験(食品衛生監視員、薬剤師、獣医師など)と同程度の出題
- ③ 大学の教養課程で学ぶ科目・分野からの出題

①は専門的な科目を集めたものであり、例えば土木区分なら、土木で学ぶ構造力学、水理学、土質力学など、建築区分であれば、建築で学ぶ構造力学、建築材料学、建築施工などです。②は記載の通り、公務員試験でも、各種資格試験に準じる出題となっています。また、③はほとんど数学と物理の出題であり、数学であれば関数や極限と微積分、複素数、物理であれば基礎力学(質点・剛体)、熱力学、波動、電磁気学などが挙げられます。なお、③の分野は「工学に関する基礎」、一般に「工学の基礎」と呼ばれることが多く、様々な技術系公務員試験で出題されます。

3. 学習プランのヒント



★専門分野は、区分および科目で、知識と計算の比重が変わります。専攻している（した）科目であれば、学習時間を大幅に減らせるかもしれません。専門分野に係る資格試験も有効です。

★意外と重要なのが「論文」。**TAC** では論文添削が何度でも OK なので、添削を通じて客観的な文章の長所・短所を知っておきましょう。また、論文スキルは面接カードの文書作成でも有効です。

〈自分の学習癖をプランに加える〉

- 数的処理は教養択一の 1/3 を占める重要科目。《理解→問題を解く》の積み重ねで実力を UP させたい。数的推理・判断推理・空間把握・資料解釈に分かれているので、直前期はそれぞれの問題を毎日解くことが望ましい。
- 文章理解は問題量と共に、解き方が大切。解き方を学ぶだけで、正解率とともに正解までの時間を短縮できる。時間短縮ができれば、本試験で有利にはたらく。
- 社会科学や人文科学は記憶する部分が多い。暗記が得意な人は年明けから一気に問題中心の学習を行い、解答・解説で触れていることを覚えれば知識の幅が広がる。
- 自然科学は意外と知識問題が多い。高校で選択しなかった科目については、まず問題を解く→知らないところをテキストや講義で調べるような「逆学習」をオススメです。

●専門択一試験の例

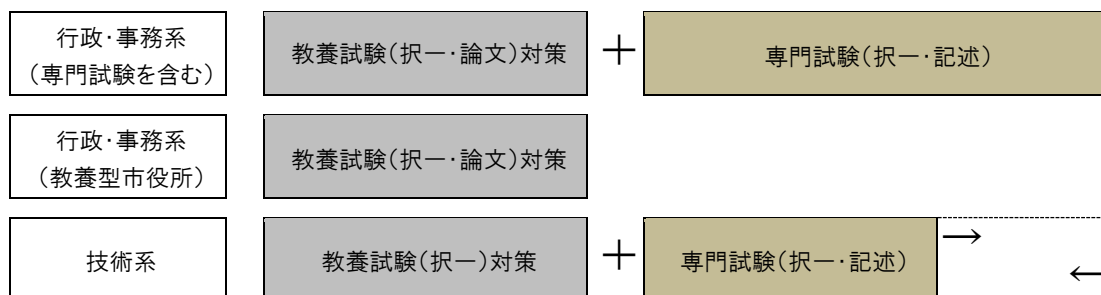
【工学の基礎】	◆内容は高校～大学2年までに学ぶ数学と物理学が多い。 ただし、大学などにより ◆国家一般職では専門択一試験の50～67%を占める。 ◆「工学の基礎」が出題されない試験種もあるが、数学、物理を基礎とする技術系試験は多い。 ◆数学では関数／極限／数列／1～2変数微積分／幾何／確率統計 フローチャート／複素数／線形代数 等 ◆物理では力学(質点・剛体)／熱力学／波動／電磁気学／回路 等
【各専門科目】	◆大学専門課程で学ぶ各種科目 ◆学生であれば「論文・研究のため日常で使用している」、技術系社会人の方なら「仕事で使っている」科目からの問題であることが多い。

なお、「工学の基礎」が出題されない例として、**東京都 I 類B, 特別区 I 類**(共に専門択一試験はなし、専門記述試験のみ)、区分別では衛生／環境／薬学系、造園／農／林／水産系ではほとんど工学の基礎が出題されません。また、化学系の「工学の基礎」は土木、建築、電気、機械に比べて出題数が少ないようです。

教養試験は行政・事務職と共通問題冊子を使うため、受験者数が多く、その結果として統計情報の元データを多く集めることができます(先ほどの合格ラインなど)。一方、専門試験は行政・事務職と異なる問題であり、かつ区分ごとに問題内容が異なるため、合格ラインを予想しにくいのが実情です。しかし、一般的な傾向として、各区分の専門分野は得点しやすく、大学の教養課程で学ぶ科目・分野は忘れていた部分があるため得点を取り逃しやすいことが挙げられます。

大学の教養課程で学ぶ科目・分野	内容は大学数学・物理の基本 >>大学1～2年時で学習 >>専攻学習で使わない分野もある >>忘れてしまう⇨失点の可能性はある。
各区分の専門分野	内容は大学の専攻分野 >>大学2～3年(一部4年時)で学習 >>卒論／卒業研究／大学院入学試験(院試)で頻繁に使う >>覚えている内容が多い⇨問題は解きやすい

>>試験種による学習内容の違い(概要)



※教養試験と専門試験の面積はイメージであり、具体的な学習量を示すものではありません。

決して、「学習量が少ない＝合格しやすい」わけではありませんが、理系(技術職)公務員の専門試験(択一・記述)は区分に関する内容のみが試験問題となります。つまり、公務員試験の学習をする前提として、

学部例	行政・事務職 専門試験	学部例	理系(技術職) 専門試験
法律系学部	憲法・民法・行政法・ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学・政治学・行政学 ＊その他刑法、労働法、商法、経済学、社会学、社会政策、社会福祉など	土木系学部	土木分野
経済系学部		建築系学部	建築分野
社会科学系学部		電気・情報系学部	電気・情報分野※
文学系学部		機械系学部	機械分野
		化学系学部	化学分野
		薬学系学部	薬学分野

※“情報”区分を電気区分とは別に設けている自治体もあります。

専門科目で必要な学習内容・学習の分量が、行政・事務系公務員と理系(技術職)公務員で大きく異なることがわかります。文系で公務員を目指す方が「公務員試験は科目が多いので対策を立てづらい」、「大学で学んだことのない科目があまりにも多い」という一般的な情報は、理系公務員を目指す方には合致しない部分がかなりある、と言えるでしょう。逆に言えば、理系(技術職)公務員では、専門(択一・記述)試験の得点に大きな差がない可能性があると考えられます。

TIPS：学習は「1つに絞る」派？「並行する」派？

先に述べた通り、公務員試験はたくさんの科目で総合点を取りに行く試験です。科目を並行して学習しながら、総得点力を伸ばしていくことが必要です。

ここまでくると、一般的に「公務員試験の学習は、およそ1年」と言われていることが分かっていただけたと思います。特に理系の方々は、専攻する内容により“忙しさ”＝“公務員試験学習以外に使われる時間”がさまざまであるため、公務員試験の1次試験日から逆算して、大まかなプランを立て、それを基準として学習するのが良いと思います。もちろん、プランはいつ崩れてもおかしくないもの。プランには余裕を持ち、余裕ができれば復習や問題演習に回し、忙しい時期はとりあえず問題だけでも(もちろん量を少なめに)といった使い方を考えるとよいでしょう。

②質問カード

質問をカードに書いてご提出ください。受講生の質問に講師が丁寧に回答して返信いたします。

※コピーしてご使用ください。

TAC 公務員講座 質問カード

20△△年△△月△△日

氏名 ○○○○ ○○○○

会員番号 ●●●●●●●●●●

電話番号 ●●●●●●●●●●

Fax番号 (Fax返却希望者) ○○○-○○○-○○○

住所 〒●●●●●●●●●● ●●●● ●-○-○-○-○ ●●●●

東京都千代田区○○○○○ ○○○ ○-○-○-○ ○○○

※該当する形態に○をつけて下さい。

※()内にコース名をご記入下さい。

(A) 教室講座・VIP講座 (●●●) 月入学 (◆◆◆◆) 校 (A) 本科生 ()

B DVD講座 () 月入学 () B バック生 ()

C 通信講座 (Web+DL・DVD・資料) () 月入学 () C 単科生 ()

お電話で回答する場合がございます。曜日 月 火 水 木 金 土 日

希望時間を記入してください。時間

2016 年合格目標 技術職コース

質問箇所) 科目: 教材名: ページ

◆質問内容 (できるだけ具体的に記入ください。)

工学の基礎V問題集のP61 No.5の説明をお願いします。
ベルヌーイの定理を使って解こうと思ったのですが、流体の
密度がバラバラなので、どんな式を立てればいいかわかりま
せん。また、V問題集の解答解説を見ても理解できず、
困っています。

◆回答 (20 年 月 日)

回答・解説を詳しくするため、別紙を作成しました。
添付の別紙回答を参考にしてください。

(注) 1. 質問事項はカード1枚につき1項目です。提出については、1ヶ月につき2
2. 記入漏れのある場合は回答・返信できない場合がございます。
3. 質問は試験準備に合き必要にことに限ります。
4. 質問コーナーもご利用ください。

※裏面にTACにおける個人情報の取り扱いについて記載しておりますのでご参照ください。

〈質問のコツ〉

- * 質問したい問題のNo., 質問箇所を
具体的に示すと、回答しやすくなるので
返答が早くなる場合があります！
- * 1枚のカードに1つの質問を送ることで、
対応がしやすくなり、返答が早くなる
場合があります！
- * 直前期は質問が殺到するので、わか
らない部分は早め早めに質問をすると、
あとから余裕を持った復習ができます！

こんにちは。公務員講座 技術職担任講師 和田です。いただいた質問に対応させていただきます。質問では、「工学の基礎」の問題に対し、ベルヌーイの定理を意識して解いたわけですね。静止している流体(流体！?)

についてのつりあいが理解できれば、
通常の流体も対応できると思います。

静止流体を考えるとときには、「何
と何がつりあっているのか」を考
えるのがポイントです。今回は一連の
管を分けて考えてみようと思います。

P_0 と P_1 について、その釣り合い
を考えます。 P_1 につり合っているの
は、①圧力 P_0 + ②流体の重み です。

②流体の重みは、

密度 $\rho \times$ 重力 $g \times$ 管の長さ
となるので、 $(P_0 + 3\rho_{cg}h)$ が P_1 とつ
りあっている(静止している)こと
になります。また、 P_1 は $P_2 + \rho_{cg}h$ と
もつり合っていることがわかります。

さらに、 $P_2 + 4\rho_{cg}h$ は P_a とつり合っているの、これらを式にしてみます。

$$P_0 + 3\rho_{cg}h = P_1 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$$P_1 = P_2 + \rho_{cg}h \quad \cdots \textcircled{2}$$

$$P_2 + 4\rho_{cg}h = P_a \quad \cdots \textcircled{3}$$

求めたいのは P_0 、 P_1 と P_2 は消去したいので、①、②より、

$$P_0 + 3\rho_{cg}h = P_2 + \rho_{cg}h \quad \cdots \textcircled{4}$$

となり、③は

$$P_2 = P_a - 4\rho_{cg}h \quad \cdots \textcircled{5}$$

となるので、④、⑤より、

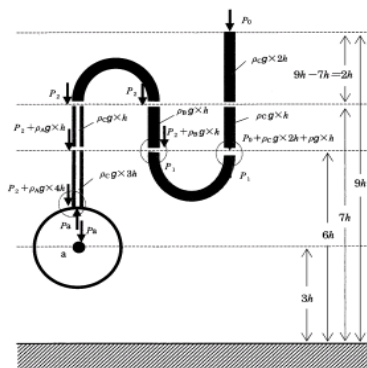
$$P_0 + 3\rho_{cg}h = P_2 + \rho_{cg}h$$

$$= P_a - 4\rho_{cg}h + \rho_{cg}h$$

$$P_a = P_0 + 4\rho_{cg}h - \rho_{cg}h + 3\rho_{cg}h$$

$$= P_0 + (4\rho_A - \rho_B + 3\rho_C)gh$$

となり、選択肢3が答えとなります。



③講義後の質問

講義終了後、講師に直接質問をすることができます。

安全対策のため、拠点ごとに終了時間がありますのでご注意ください)

4. 受講ガイド・オリエンテーションブック・フォロー制度の有効活用

皆さんの手元にある(なければすぐにお渡しします！！)受講ガイド・オリエンテーションブックですが、これはTAC理系公務員(技術職)本科生の「取扱説明書」兼「資料集」となります。これまでの本試験情報やその内容、各種フォローの内容と取扱いについて、できるだけ詳細にまとめ、かつコンパクトで持ち運びしやすい形にしています。何か困ったときは、まず受講ガイド・オリエンテーションブックを使ってみることで、参考になることや、解決することがたくさんあります。

○各種フォロー制度

■欠席・復習用のフォロー制度

》》Web＋講義音声DLフォロー(本科生標準装備)

教室講義に加え、回数無制限、時間帯自由選択で学習ができないかなあ・・・という方々の声にお応えしたのが Web フォローです。技術職本科生の Web フォローは標準装備！特徴は・・・

- ①講義や演習解説内容をすべて含んでいる
- ②時間帯自由選択。いつでも講義が開始できます。
- ③視聴回数無制限。視聴期限(2014年9月)まで、何度視聴しても OK です。

※視聴期限の詳細については受講ガイド・オリエンテーションブックの後方“資料”をご確認ください。

- ④倍速機能で講義時間短縮、チャプター機能で見たいところに集中できます。
- ⑤持ち運ぶのは ID とパスワード。PC 環境が整っていれば、自宅・旅行先・学校…
視聴場所は広がります。

- ⑥「講義の復習用」、「欠席時のフォロー」、「本試験直前の見直し」として、有効活用できます！

例えば「教室(講義)の受講生ですが、忙しくて出席できません…」という場合、対応策の1つとして Web フォローを考えてみるのはいかがでしょうか。多忙な理系学生や社会人の方々にとって、「いつでも、どこでも、何度でも」使うことのできる安心感が公務員試験学習上の大きなフォローとなります。また、教室講義の音声ファイル(WMA 形式)や講義録ファイル(PDF)をインターネットからパソコンへインストール、欠席時のフォローや復習として利用できる優れものです。特に、人文科学や社会科学、本試験直前に行われる時事対策などは、

①講義で概要を把握→②自宅等でDLフォロー＆講義録で復習→③移動中はDLでさらに復習

という使い方ができます。なかなか記憶できない知識も、何度も繰り返せば強化が見込めます！

ODVDフォロー(VIPコースは1回／講義 無料)

DVDに収録した教室講義をTACのDVDルームで見ることができます。また、実際にDVDが視聴できる時間は教室講義時間と異なり、1日を4つの時間帯に分割、①～④の時間帯から視聴時間を選んで予約ができます。

教室講義 朝(10:00～13:00)		教室講義 昼(14:00～17:00)		教室講義 夜(18:30～21:30)※	
DVD ①9:30～12:30	DVD ②12:30～15:30	DVD ③15:30～18:30	DVD ④18:30～21:30		

※校舎により、夜は(18:20～21:20)の場合があります。日程表などご確認ください。

技術職本科生に含まれる講義 DVD は、視聴開始日～各種1次試験(9月下旬がメド)まで視聴が可能なので、1度出席した講義でも、のちのち復習のために利用することが可能です。さらに、対象となるDVDは全国のTACにストックがあります。なので…

使い方1)4月までは教室講義とDL フォローに専念、本試験直近でDVDを活用＆自習室で復習。

使い方2)数的処理や工学の基礎は教室でしっかり、人文・社会科学はDVDでじっくり。

使い方3)卒論や研究で教室に出られないので、一定期間は時間を選べるDVDで学習。

使い方4)帰省やフィールドワークでしばらくココにいられない！移動先のTACでDVD学習。

使い方5)しばらく〇〇校の通学が難しい。ペースを乱さないように自宅近くの△△校でDVD学習。

といったように、いろいろな使い方があります。特に、VIPコースなら各講義ごとのDVDがすべて1回ずつ無料です。

簡単に言えば、VIPコースは

教室講座を申込みと、DVD講座も同時に申込みをしたことになる

＝ほぼ1講座分のお値段で、2講座のお買い上げができる

(実際には Web+DL フォローが標準装備なので、3講座分！)

となります。独自の使用方法を考え、より自分にあった学習法で本試験に臨んではいかがでしょうか。

○校舎間振替受講制度(工学の基礎)

2012年8月現在、技術職の特徴となる「工学の基礎」教室講義は渋谷校と津田沼校で行っています。逆に、それ以外の科目は教室講義を全国のTACで行っています。なので、学校や仕事の都合などで登録クラスに出席できない場合は、手続き不要で他のクラス・校舎に振替て出席することができます。

「工学の基礎」 できるだけ渋谷校か津田沼校で(欠席の場合はDVDで)

その他の科目 校舎を自由に選んで

・平日は大学や会社の近くのTACで学習

・休日は自宅の近くのTACで学習

という使い分けができ、時間の節約や自分にあった学習プランのアイデアにつながります。

○重複受講制度

重要科目であり、出題数も多い「工学の基礎」・「数的処理」・「文章理解」および最終合格のための「面接試験対策講義」に関しては、日程上可能ならば、教室講義へ何度出席しても OK！ というシステムです。もちろん無料・予約不要です。1度ではわからない内容も、複数回受講することで得点力をしっかり養うことができます！

●振替受講制度・重複受講制度のまとめ

	対象科目	対象校舎	備考
振替受講制度	すべての科目	すべての校舎※2	予約なし 無料
重複受講制度	基本講義科目 ・工学の基礎 ・数的処理 ・文章理解 面接対策講義		予約なし 無料 回数制限なし

* TAC 会員証・V テキスト・V 問題集は必ずお持ちください！

※ 日程・校舎によっては講義を行っていない科目もありますので、日程表を必ず確認してください。

○担任講師制度

技術職講座の受験生をサポートする講師陣です。学習上の相談はもちろん、民間企業の併願対策や面接対策など、なんでも気軽に相談することができます。また最新の試験情報なども行い、さまざまな角度から皆さんの学習を支援していきます。

特に制度を利用してもらえるのは“面接試験”直前！面接カードの添削や志望動機のまとめ方、併願状況を考えて面接の具体的な対策から自己 PR のアイデアまで・・・さまざまな面で受講生の「困った」「どうしよう」を支える強力なフォロー制度です。

○論文添削・模擬面接 回数無制限

論文は練習が大切！講義で論文の形を学んでも、それを実際に使ってみないと、いざ本番で困ることに。そのための論文添削回数無制限です。添削された論文をじっくり確認し、自分の弱点と強みを学んだら、再度論文に挑戦・・・という形が論文対策の王道です。むやみに書くのではなく、考えて書く。そして、客観的に見てもらう。これが重要です。

1次試験が合格(おめでとうございます！)したら、次に待つのは面接や集団討論。その面接も1回ではなく2回、3回、さらには併願を考えると「いったい何回の面接を受けるんだろう？練習、しなくちゃ…」となるかと思います。

受験生の面接対策には、模擬面接で対応します。回数無制限なので、「自信がつくまで」、「たくさんの併願」、「1次面接も2次面接も」といった要望にしっかりと答えします。もちろん無料、日程や校舎の予約をいただければ、模擬面接が受けられるシステムです。